

社会福祉法人北海道クリスチャンセンター福祉会 家庭福祉相談室

公表:平成 31年 4月 1日

| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標 |
|------------------|---|------|---------------|------|--|--------------------------------------|
| 環境・ 体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 100% | | | | |
| | ② 職員の配置数は適切であるか | 100% | | | 親グループにカウンセラーを配置したり、ボランティアの協力を得ながら個別対応ができる人員を確保するよう努めている。 | |
| | ③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 100% | | | | |
| | ④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 100% | | | | |
| 業務改善 | ⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか | 70% | 15% | 15% | 年度末、年度当初時の会議、月2回の会議において、スタッフ全員で話し合い、見直しを行っている。 | |
| | ⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | | | 100% | | 2019年度より、実施予定 |
| | ⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 100% | | | | 2019年度より、新ホームページを作成し、公開に向けた手続きを行ってきた |
| | ⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | | | 100% | | |
| | ⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 100% | | | 外部研修を勧める。そのための参加費等を事業所が負担する。 | |
| 適切な 支援の 提供 | ⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか | 100% | | | 事業所内で行う発達検査等については、その結果を保護者に伝え、支援計画に生かす。 | |
| | ⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 100% | | | 数種類の検査を使っている。半年に1回、数年にわたり行い、その経過を保護者に伝える。 | 外部で受けた検査の結果を、保護者から提供してもらい、支援に生かしたい。 |
| | ⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 100% | | | ガイドラインに沿ってはいるが、当事業所独自の様式により、より具体的に保護者に提示できるよう、工夫している。 | |
| | ⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 100% | | | | |
| | ⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 100% | | | 個別対応を、複数のスタッフの話し合いのもとに行っている。 | |

| | | | | | | | |
|------------------------------|---|---|------|------|------|---|-------------------------------------|
| | ⑮ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 100% | | | | |
| | ⑯ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て児童発達支援計画を作成しているか | 100% | | | 幼児期の特性、子供一人一人の特性を踏まえ、個 別、集団の参加の仕方を考えた支援計画にするよう | |
| | ⑰ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援 の内容や役割分担について確認しているか | 100% | | | 必ず行っている。 | |
| | ⑱ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支 援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 100% | | | 必ず行っている。 | |
| | ⑲ | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善 につなげているか | 100% | | | 必ず行っている。 | 記録の取り方に、工夫が必要で、今後の課題でもある。 |
| | ⑳ | 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要 性を判断しているか | 100% | | | | |
| 関係機 関や保 護者 との連 携 | ㉑ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの 状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 100% | | | | |
| | ㉒ | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携し た支援を行っているか | 100% | | | | |
| | ㉓ | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を 支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連 携した支援を行っているか | | | 100% | 該当する子供がいない。 | |
| | ㉔ | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を 支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか | | 100% | | しなければならない時は、協力医や、専門医に教えを 請いながら、する。 | |
| | ㉕ | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校 (幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を 図っているか | 100% | | | 就学時、入学する児童について、就学先の学校への 引継ぎを行っている。 | |
| | ㉖ | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、 支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか | 100% | | | 就学時、入学する児童について、就学先の学校への 引継ぎを行っている。 | |
| | ㉗ | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害 者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けてい るか | 100% | | | 支援者会議等を通して、他のセンターや事業所の意 見を聞く機会に、積極的に参加する。 | |
| | ㉘ | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子 どもと活動する機会があるか | 75% | | 25% | 同法人の保育園に出向き、保育士や子供と交流す る。「保育所等」の事業の中で、総数90回を超える訪 問を行い、先生方と話し合う機会を持つ。 | |
| | ㉙ | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等 へ積極的に参加しているか | | 50% | 50% | | 意義は多くあると思うが、余裕がなく、なかなか参加できてい ない。 |
| | ㉚ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状 況や課題について共通理解を持っているか | 100% | | | 親グループでの話し合い、支援計画や「訪問支援計 画」、訪問時の様子等、保護者と話す機会は多い。 | |
| | ㉛ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支 援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている か | 100% | | | 親グループにカウンセラーを配置している。児童の来 室時には、親グループに参加することを促し、親の居 場所作り、情報交換の場にもなっている。 | |

| | | | | | | | |
|------------|---|---|------|-----|------|--|---|
| 保護者への説明責任等 | ⑳ | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 100% | | | 初回契約時に必ず行っている。 | |
| | ㉑ | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか | 100% | | | 親の希望を聞き、当事業所でできる支援を説明したうえで、支援計画を作り、参加してもらう。 | |
| | ㉒ | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 100% | | | 子どもが療育を受けている時間は、保護者は、親グループに参加。カウンセラーや、親同士で色々話合われる。 | |
| | ㉓ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | 100% | | | 子どもが療育を受けている時間は、保護者は、親グループに参加。カウンセラーや、親同士で色々話合われる。 | |
| | ㉔ | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 100% | | | 個別懇談の希望には、極力応じる。帰宅後、電話での相談もある。 | |
| | ㉕ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 100% | | | グループだよりを、各グループで、月1回発行。行事予定や説明を別紙で行うこともある。 | |
| | ㉖ | 個人情報の取扱いに十分注意しているか | 100% | | | 年度初めにボランティアも含め全員で確認する。 | |
| | ㉗ | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 100% | | | 連絡ノートを作っている。またカウンセラーと保護者は、メールアドレスの交換をしている。 | |
| | ㉘ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | 25% | 25% | 50% | | 地域的に近隣住民との交流は難しいが、隣接の保育園、クリスチャンセンターを利用する人たちとの交流がもっとできればいいと思う。 |
| 非常時等の対応 | ㉙ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか | 100% | | | | |
| | ㉚ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 100% | | | | |
| | ㉛ | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか | 100% | | | | 保護者から得た情報により、保護者の意向に沿った対応を心掛けている。 |
| | ㉜ | 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか | 100% | | | | 保護者からの情報により、対応できる範囲です。 |
| | ㉝ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 50% | 25% | 25% | | ケース検討会では、事例が話し合われるが、事例集とまではいかない。今後意識してまとめ、全職員の共有としたい。 |
| | ㉞ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 25% | 50% | 25% | | |
| | ㉟ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか | | | 100% | 身体拘束は行わないことが前提にある。 | |

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。